

新しい足利銀行に期待すること

開倫塾

塾長 林 明夫

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。

1. はじめに

(1)先週の11日には新島の中学校といいですか、東京都の島の一つである新島というところですね、中学3年生、総合的な学習の時間に呼ばれ、21名に話をしました。出張授業として高等学校に進学したり、社会に出るに当たって心得ておいた方がよいことについてお話をしました。与えられたテーマは「福祉」について語ってほしい。ということでしたので、足利市にある特別養護老人ホーム「清明苑」理事をやらせていただいていることをふまえて、「清明苑」でどのような介護活動とか福祉活動をやって紹介させていただきました。福祉には子供の福祉、母子福祉、児童福祉、ニート、フリーターへの福祉、仕事を持ちながら働く人たちの福祉、高齢者福祉(65歳以上)などあります。福祉の担い手にはどんなふうになったらいいのか。そのこともお話ししました。福祉の担い手になるには、中学校・高校と勉強して専門学校それから短期大学、大学でもっともっと専門の勉強する必要があります。更に勉強する方は大学院まで行って勉強すること。それから勤めることとなります。勤めて10年～15年くらいはその職業について理解するのにかかります。35歳、40歳まではとにかく勉強。勉強してほしい。そして、福祉の担い手として第一線で活躍していただきたい。70歳くらいまで働いていただく。70～105歳までは体の許す範囲で、こんどはゆっくり自分のやりたい福祉の活動をしていただく。35歳くらいまで、つまり学校を出てから10年くらい勉強をきちんとすると70歳までいい仕事ができる。70歳をすぎても105歳くらいまで35年間また違う形で仕事に就ける。一生続けて福祉の担い手になって下さい。足利市出身の「相田みつを」さんという書家の言葉に「一生勉強、一生青春」があります。私はこの言葉が大好きです。新島中学校に行っても紹介しました。勉強を続けながら人生を送っていただきたい。

新島に行って驚いたことは、島の中にゴミが一つも落ちていないということです。道路にゴミが落ちていない、きれいな島でした。村民の方は落ちていたら拾っています。中学生は、学校に行く途中、ゴミを拾っています。そのお陰で村中がすばらしくきれいになっている、素晴らしい村です。

(2) 足利銀行の受皿についての決定があり、野村グループとなりました。

私が新しくなった足利銀行に期待したいのは次の5点です。

足利銀行という名前だけは残してほしい。友愛疑団というすばらしい歴史がある。

これまでの取引先に引き続きご融資を続けてもらいたい。

2100名という行員が池田頭取の素晴らしいリーダーシップの下、頑張っていた。歯を食いしばって再建に励んできた。この行員を一人も解雇しないでいただきたい。

もう一度再上場していただきたい。

自主的な経営を目指してほしい。

私はマニー株式会社の社外取締役をおおせつかっています。マニー株式会社では、社内だけでなく社外からも4名、弁護士の方、会計士の方、花王の ATTACK を開発した村田さん、経営者の立場で私と4名の社外取締役がいます。もし可能であれば、マニー株式会社のような、足利銀行も委員会設置会社にしていただいて、ガバナンスの強化を図っていただきたい。透明性を高めてもらいたい。野村証券と十分協力し、国際競争力のある独自性をもった金融機関を目指してもらいたい。日本や栃木県の経済の成長、日本国民や栃木県民生活の向上を引っ張る金融機関になってほしい。そのためには国の内外から、外部の人材をどんどん導入してやっていただきたい。今いる2100名の行員の方の能力を強化していただきたい。そう思います。

以上